

避難訓練（水害）



令和2年10月12日（水）、村山野川が氾濫（はんらん）し、学校の1階床上まで浸水した。14時25分、神町中学校の非常ブザーが鳴り、校舎3階への避難指示が出された。当時、ム・ネッティ社長は2年生の合唱中間発表会を取材していた。非常ブザーが鳴った時、神町中学校の2年生は斉藤主任の講評を聞いている真最中だった。講評の途中にブザーが鳴ったためか、2年生はパニックにおちいり放送の指示が聞き取れない状態になった。これは危険だ。なぜ、ブザーが鳴ったのか。何が起きたのか。どう対応すればよいのかの情報が全く手に入らない。このまま2年生は災害の犠牲になるのか、緊張が走る。その時「静かに。放送を聞け。」と先生が叫ぶ。「水害が発生した。避難をするので、指示を待ちなさい。」との放送が聞こえる。そして、「3階に避難する。1階にいる生徒から避難する。2年生は、1階の生徒が避難するまで体育館入口に避難できるようにして待機せよ。」との放送が入る。そして、放送の指示により3階への避難が始まる。ここまで、2年生は整然と話し声1つなく放送や先生の指示に従い、すぐに体育館を出られるように待機完了。さすが、神町中学校の2年生だ。一足早く体育館を出たム・ネッティ氏は、2階から避難してくる1年生と出会う。話し声が聞こえる。確か、前回の避難訓練では「1年生は話し声が多かった」という課題が出ていたはずだ。「これでは、1年生からも犠牲者が出る可能性が大きい。」と思いながら、ム・ネッティ氏は3階の本部に駆け込む。2階から避難してきた3年5組が静かに整然と避難を終え次の指示を待っている。立派だ。2年生が3階に上がってきた。指示された位置に並び人数の確認を行っているが、話し声が絶えない。うまく人数点検ができない。避難できず取り残されている人がいれば、この時間の口は致命的だ。ここでも2年生の尊い命が失われてしまうのか。「静かにしろ。人数を確認中だ。」と先生の声で、ようやく静かになり人数点検が終了。2年生を含む神中生全員の避難が確認された。避難指示が出されてから、6分19秒であった。今回は水害のため、垂直避難（上へ上へ避難）の訓練であった。災害時に大事なことは、「自らの判断で行動する」「早め早めに行動する」ことである。判断するための情報を得る行動をとっていたか、避難中も自らの判断で動いていたか、課題は山積みである。幸い、死者行方不明者はゼロであった。



神町中学校では連日、合唱中間発表会が行われている。ブラック・ムネッティ氏は潜入取材に成功し、独自の観点で各クラスの採点表を作成した。この採点表は非公開となっているため、「カラット」に掲載することはできないが、希望するクラスがあればこの採点表に基づきアドバイスすることは可能である。希望するクラスがあれば、夢色通信社まで。（かなり厳しく採点しているので、心臓の弱いクラスはご遠慮ください）